

■対応レベル等

表 1 発生状況に応じた対応レベルの概要

発生状況 \ 対象地	全国	発生地*周辺（発生地から半径 10 km 以内）
通常時	対応レベル 1	指定なし
国内単一箇所発生時	対応レベル 2	野鳥監視重点区域に指定
国内複数箇所発生時	対応レベル 3	
近隣国発生時等	対応レベル 2 又は 3	必要に応じて適切な場所に野鳥監視重点区域を指定

*緊急的に警戒が必要となる野鳥や飼養鳥、哺乳類の発生見込み事例（簡易検査陽性や A 型インフルエンザウイルス M 遺伝子陽性の場合）や、家きん等の疑い事例の発生地を含む。

表 2 対応レベルの実施内容

対応レベル等	鳥類生息状況等調査	ウイルス保有状況の調査（死亡野鳥等調査）			
		検査優先種 1	検査優先種 2	検査優先種 3	その他の種
対応レベル 1	情報収集監視	1 羽以上	3 羽以上	5 羽以上	5 羽以上
対応レベル 2	監視強化	1 羽以上	2 羽以上	5 羽以上	5 羽以上
対応レベル 3	監視強化	1 羽以上	1 羽以上	3 羽以上	5 羽以上
野鳥監視重点区域	監視強化	1 羽以上	1 羽以上	3 羽以上	3 羽以上

- 同一場所（見渡せる範囲程度を目安とする。沿岸・海洋の場合は海流等の環境を鑑み関連した場所）で数日間（おおむね 3 日間程度）に発見された死亡個体や衰弱個体の合計羽数が表の羽数に該当した場合を基本として、ウイルス保有状況の調査を実施する。ただし死亡原因が他の要因であることが明瞭なものは除く。
- 見渡せる範囲程度とはあくまで目安であり、環境によって大きく異なり具体的数値を示すのは困難である。そのため、同一場所の範囲は、地域の鳥類に詳しい研究者等と相談し、現場の状況に即して判断して差し支えない。
- 重度の神経症状を呈している、野鳥監視重点区域で感染確認鳥類の近くで死亡していたなど、感染が疑われる状況があった場合には、鳥種や羽数に関わらず検査対象とする。
- 継続発生時等、検査数が多くなった場合は検査数を減らす等、表 2 にこだわらず、検査の効率化を図っても差し支えない。
- 国内希少野生動植物種（p.9 表 I-4）については、検査優先種であるか否かにかかわらず、その希少性や生息状況等を踏まえ、感染が疑われる状況があった場合には、できる限り 1 羽から検査を実施する。

表 3 早期警戒期間中の調査実施内容

鳥類生息状況等調査	ウイルス保有状況の調査（死亡野鳥調査）			
	検査優先種 1	検査優先種 2	検査優先種 3	その他の種
情報収集 監視強化	1 羽以上	1 羽以上	3 羽以上	5 羽以上

- 早期警戒期間は毎年 9 月から 10 月末までとする。当該期間終了後は、対応レベルに応じた対応に移行する。

■検査優先種

表 4 検査優先種

(11 目 14 科)

検査優先種 1 (19 種)		
カモ目カモ科 ヒシクイ マガン シジュウカラガン コクチョウ* コブハクチョウ* コハクチョウ オオハクチョウ オシドリ ヒドリガモ キンクロハジロ カイツブリ目カイツブリ科 カイツブリ カンムリカイツブリ	ツル目ツル科 マナヅル ナベヅル チドリ目カモメ科 ユリカモメ タカ目タカ科 オジロワシ オオタカ ノスリ ハヤブサ目ハヤブサ科 ハヤブサ 重度の神経症状**が観察され た水鳥類	主に早期発見を目的とする。 高病原性鳥インフルエンザウイル ス (H5 亜型) に感受性が高く、死 亡野鳥等調査で検出しやすいと考 えられる種。 死亡野鳥等調査で、平成 22 年度以 降の発生時を合わせた感染確認率 が 5%以上であった種
検査優先種 2 (8 種)		
カモ目カモ科 マガモ オナガガモ トモエガモ ホシハジロ スズガモ	タカ目タカ科 オオワシ クマタカ フクロウ目フクロウ科 フクロウ	さらに発見の可能性を高めること を目的とする。 過去に日本、韓国等において死亡 野鳥で感染確認のある種を含め る。
検査優先種 3		
カモ目カモ科 カルガモ、コガモ等 (検査優 先種 1、2 以外全種) カイツブリ目カイツブリ科 ハジロカイツブリ等 (検査 優先種 1 以外全種) コウノトリ目コウノトリ科 コウノトリ カツオドリ目ウ科 カワウ ペリカン目サギ科 アオサギ ペリカン目トキ科 クロツラヘラサギ ツル目ツル科 タンチョウ等 (検査優先種 1 以外全種) ツル目クイナ科 オオバン	チドリ目カモメ科 ウミネコ、セグロカモメ等 (検査優先種 1 以外全種) タカ目ミサゴ科 ミサゴ タカ目タカ科 トビ等 (検査優先種 1、2 以 外全種) フクロウ目フクロウ科 コミミズク等 (検査優先種 2 以外全種) ハヤブサ目ハヤブサ科 チョウゲンボウ等 (検査優 先種 1 以外全種) スズメ目カラス科 ハシボソガラス ハシブトガラス	感染の広がりを把握することを目 的とする。 水辺で生息する鳥類としてカワウ やアオサギ、コウノトリ、クロツラ ヘラサギ、検査優先種 1 あるいは 2 に含まれないカモ科、カイツブリ 科、ツル科、カモメ科の種を、また 鳥類を捕食する種として検査優先 種 1 あるいは 2 に含まれないタカ 目、フクロウ目、ハヤブサ目の種 を、死亡野鳥を採食するハシブト ガラス及びハシボソガラスを対象 とした。
その他の種		
上記以外の鳥種すべて。 猛禽類及びハシブトガラス、ハシボソガラス以外の陸鳥類については、国内での感染が確認されてお らず、海外でも感染例は多くないことから、その他の種とする。 野鳥監視重点区域においては、3 羽以上の死亡がみられた場合の他、感染確認鳥類の近くで死亡して いたなど、感染が疑われる状況があった場合には 1 羽でも検査対象とする。		

* 外来種。

** 重度の神経症状とは、首を傾けてふらついたり、首をのけぞらせて立っていられなくなるような状態 (本体マニ
アル p.113 図 IV-4 参照) で、正常に飛翔したり、採食したりすることはできないもの。

※検査優先種については今後の発生状況、知見の集積等により見直し、毎年シーズンの始めに環境省から通知する。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●オオハクチョウ (*Cygnus cygnus*)

【特徴】全長 140cm。全身は白い。細長い頸。嘴は先端が黒く、基部は黄色。コハクチョウよりも黄色の面積が広い。足は黒い。

【分布】関東以北で越冬。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●オシドリ (*Aix galericulata*)

【特徴】全長 45cm。嘴は紅色で先端は白。顔は白く、頸には栗色の筋状の羽。脇は黄褐色で、三列風切羽には特徴的な銀杏羽。

【分布】主に本州中部地方以北で繁殖し、冬は西日本で越冬するものが多い。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●ヒドリガモ (*Anas penelope*)

【特徴】全長 48.5cm。頭部は茶褐色で、額から頭頂がクリーム色。背面と脇は灰色で、黒い細斑がある。

【分布】冬鳥として、全国に渡来。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●キンクロハジロ (*Aythya fuligula*)

【特徴】全長 43.5cm。嘴は青灰色で先端は黒い。虹彩は黄色。頭は紫色光沢があり、後頭に房状の冠羽。

【分布】主に冬鳥。全国で越冬。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●カイツブリ (*Tachybaptus ruficollis*)

【特徴】全長 26cm。日本のカイツブリの中では最小。尾は非常に短く体は丸い。冬羽は上面が褐色で下面は淡色。

【分布】北海道から南西諸島まで広く繁殖。北日本では夏鳥、それ以南では留鳥。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●カンムリカイツブリ (*Podiceps cristatus*)

【特徴】全長 56cm。日本のカイツブリの中では最大。特に頸が長い。冬羽では頸の前側の白色と頸の後ろ側の黒色とのコントラストが特徴。

【分布】青森県と琵琶湖で繁殖が記録されているが、ほとんどは冬鳥として九州以北に渡来する。

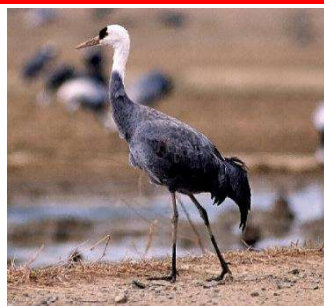


撮影：(一財) 自然環境研究センター

●マナヅル (*Grus vipio*)

【特徴】全長 127cm。眼の周囲の皮膚が赤く露出している。頭頂から後頸にかけて白く、頸から胸、腹、下尾筒までと背は灰白色。足は淡紅色。

【分布】冬鳥として、鹿児島県出水地方に渡来。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●ナベヅル (*Grus monacha*)

【特徴】全長 96.5cm。嘴は黄色みを帯びる。額が黒く、眼の上は赤色。頭部から頸は白く、その他は灰黒色。

【分布】冬鳥として、鹿児島県出水地方と山口県周南市に渡来する。

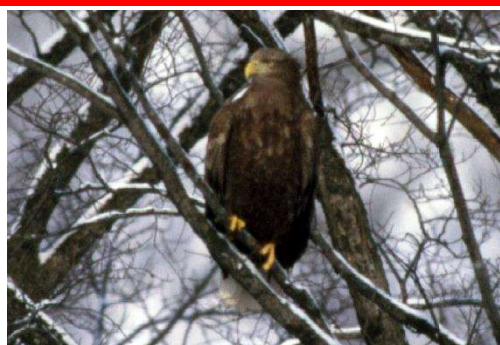


撮影：(一財) 自然環境研究センター

●ユリカモメ (*Larus ridibundus*)

【特徴】全長 41cm。細くて暗赤色の嘴。足は赤い。全身は淡い青灰色。夏羽の頭部は褐色味の黒。

【分布】ほぼ全国に冬鳥として飛来。



撮影：小林 靖英

●オジロワシ (*Haliaeetus albicilla*)

【特徴】全長 84cm (雄) / 94cm (雌)。全体的に褐色味を帯び、体の下方になるほど体色が濃い。尾は短く白色。嘴と足は淡黄色。

【分布】日本では北海道の北・東部で少数が繁殖するが、多くは冬鳥として北日本に飛来。



撮影：環境省

●オオタカ (*Accipiter gentilis*)

【特徴】全長 50cm (雄) / 57cm (雌)。嘴基部と足は黄色。虹彩はオレンジ色または黄色。上面は暗青灰色、下面は白く黒褐色の横斑がある。白色の眉斑が目立つ。

【分布】留鳥としてほぼ全国で繁殖するが、南西諸島ではまれな冬鳥。



撮影：小林 靖英



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●ノスリ (*Buteo buteo*)

【特徴】全長 52cm (雄) / 57cm (雌)。嘴は黒褐色で太い顎線あり。上面は褐色味が強く下腹に褐色斑あり。飛翔時、翼角の暗黒色斑が目立つ。

【分布】主に留鳥として本州中部以北で繁殖。四国・九州以南では冬鳥として飛来。



撮影：（一財）自然環境研究センター

●ハヤブサ (*Falco peregrinus*)

【特徴】全長 41cm (雄) / 49cm (雌)。上面は暗青灰色。下面は白く、黒褐色の横斑がある。頬に目立つひげ状の黒斑がある。

【分布】留鳥として九州以北で繁殖するほか、全国に冬鳥として飛来。

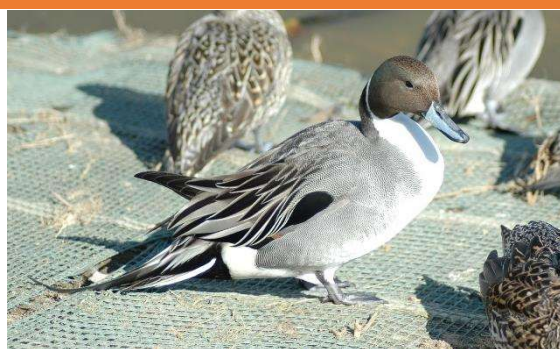


撮影：(一財) 自然環境研究センター

●マガモ (*Anas platyrhynchos*)

【特徴】全長 59cm。嘴は黄色。足は濃いオレンジ色。頭は暗緑色。頸に細い白の輪。胸は茶色。

【分布】冬鳥として全国に渡来する。北海道などでは少数が繁殖。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●オナガガモ (*Anas acuta*)

【特徴】全長 75cm (雄) / 53cm (雌)。嘴は黒く、両側は青灰色。頭部から後頸にかけてチョコレート色。頸と胸は白い。尾羽は黒色で細長い。

【分布】全国的に冬鳥として飛来。

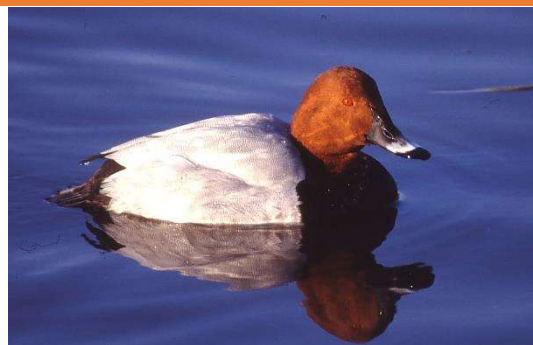


撮影：(一財) 自然環境研究センター

●トモエガモ (*Anas formosa*)

【特徴】全長 40cm。顔の模様が特徴的で、黄白色、緑、黒の三色の巴形をしている。胸は赤紫褐色で脇は青灰色。

【分布】冬鳥として本州以南の日本海側に多く渡来する。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●ホシハジロ (*Aythya ferina*)

【特徴】全長 45.5cm。嘴は黒く、中ほどは鉛色。足は鉛色。頭から頸は赤茶色。上・下面とも灰色で、細かい黒い波状の斑がある。胸と尻は黒。

【分布】主に冬鳥。全国に飛来。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●スズガモ (*Aythya marila*)

【特徴】全長 46.5cm。オス成鳥の頭部は緑や紫の光沢色。胸と上・下尾筒は黒い。背は白いが細かく黒い波状斑がある。脇と腹は白色。

【分布】全国的に冬鳥として飛来。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●オオワシ (*Haliaeetus pelagicus*)

【特徴】全長 88cm (雄) / 102cm (雌)。体は全体的に黒褐色だが、額、翼前縁、腰、尾、上・下尾筒が白色。嘴は大きく橙黄色。

【分布】日本へは冬鳥として主に北日本に渡来する。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●クマタカ (*Nisaetus nipalensis*)

【特徴】全長 72cm (雄) / 80cm (雌)。後頭に冠羽がある。胸は白く、黒褐色の縦斑がある。飛翔時に翼の幅が広く見える。

【分布】九州以北で留鳥。



撮影：(一財) 自然環境研究センター

●フクロウ (*Strix uralensis*)

【特徴】全長 48～52cm。頭部から背は灰褐色で、褐色の縦斑が密にある。胸から体下面は淡灰褐色で褐色の縦斑がある。顔にはハート型の縁取りがある。羽角はない。

【分布】留鳥として九州以北に分布。



撮影：（一財）自然環境
研究センター

●コウノトリ（*Ciconia boyciana*）

【特徴】全長 112cm。全身はほぼ白色で、風切羽が黒色。嘴は長く、黒色。目の周囲は赤色。足は暗赤色。

【分布】主に留鳥。現在は再導入された個体が全国で確認されている。まれに大陸から迷行してくる。



撮影：（一財）自然環境
研究センター

●クロツラヘラサギ（*Platalea minor*）

【特徴】全長 73.5cm。体は全体的に白色。嘴はしゃもじ型で黒色。足は黒色。嘴と目の間が黒色であることから、別種のヘラサギと区別できる。

【分布】主に冬鳥として九州に飛来。



撮影：（一財）自然環境研究センター

●ハシボソガラス（*Corvus corone*）

【特徴】全長 50cm。全身は黒色。ハシブトガラスより一回り小さい。ハシブトガラスよりも嘴が細く直線的。

【分布】留鳥としてほぼ全国に分布。



撮影：（一財）自然環境研究センター

●ハシブトガラス（*Corvus macrorhynchos*）

【特徴】全長 56.5cm。全身は黒色。嘴は太く、上嘴は先端にかけて湾曲する。ハシボソガラスよりも額が出っっぱっていて、額と嘴が段になってみえる。

【分布】留鳥として小笠原諸島以外の全国に分布。

（参考）

高野伸二（2015）フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版。公益財団法人日本野鳥の会

国立環境研究所ホームページ 侵入生物データベース

<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20480.html>

（R7.9 更新）

■連絡先

・環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室	TEL：03-5521-8285
・北海道地方環境事務所	TEL：011-299-1954
・釧路自然環境事務所	TEL：0154-32-7500
・東北地方環境事務所	TEL：022-722-2876
・関東地方環境事務所	TEL：048-600-0817
・中部地方環境事務所	TEL：052-955-2139
・信越自然環境事務所	TEL：026-231-6573
・近畿地方環境事務所	TEL：06-6881-6505
・中国四国地方環境事務所	TEL：086-223-1561
・四国事務所	TEL：087-811-6227
・九州地方環境事務所	TEL：096-322-2413
・沖縄奄美自然環境事務所	TEL：098-836-6400